

平成29年9月1日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

福島町議会議員 溝 部 幸 基 ㊟

研 修 成 果 報 告 書

福島町議会議員の研修に関する条例第7条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

- 1 研 修 日 時 平成29年8月22日(火)
午前10時30分～午後2時30分
- 2 研 修 先 札幌市 「ポールスター札幌」
- 3 研 修 目 的 平成29年度北海道町村議会議長会主催議会広報研修会
- 4 研修成果(考察)

【研修会テーマ】

(講義・クリニック)

「議会がもっと身近になる広報紙づくり」

エディータ・広報アナリスト

講 師 吉 村 潔 氏

開会挨拶(抜粋)

駒谷広栄副会長(長沼町議会議長)

近年議員のなり手不足問題がクローズアップされている。議員処遇改善の必要性は勿論であるが、まずは議会が何をしているのか、住民に知っていただき、議会に興味を持っていただくことが重要だと感じている。そういう意味からも議会広報の役割が重要である。議会広報の編集技術は、努力により向上してきているが、最近では多くの雑誌・書籍・新聞などが電子化され、スマホなどで閲覧できる状態になっており、広報媒体としてインターネット等の技術を利用した、実に多様なものがあり、日進月歩で進んでいるが、紙ベースでの議会だよりが最も大きく読まれている現状だ。未だに内容が難しく分かりづらいという意見が多くあり、更なる改善努力が必要だ。

講師 吉村 潔(エディター・広報アナリスト)

北海道の町村議会が、全国の議会改革に大きな役割を果たしてきているのは周知の通りだ。基本条例・通年の会期制・行政評価・議会の自己評価等、他に先駆けてきた実績があり、今でも、多くの面で影響を与えている。広報に関しては、4・5 年で特に大きく変わってきつつあるという実感を持っている。議会広報を身近に、分かりやすくするためにどうしたらよいか、様々な角度からの検討、実践が積極的に行われてきている。単純にわかりやすくということだけでなく、更に議会のチェック機能のベースになる、調査・研究等の活動を通して、活発な議論から、意見、提言がなされる議会の活動が広報を通して地域の中に浸透していく動きが、目に見えるカタチで増えて来たと思っている。

今日は限られた時間の中ですが、各町の議会広報誌を見ていき、その中で、クリニック的なことも話していきたいと思っている。

* 議会だよりクリニック の視点

- ① 議事・議決機関としての説明責任が果たされているか
- ② 議会活性化と連携した広報になっているか
- ③ 地域課題の共有、住民参加の広報が実践されているか
- ④ 定例会以外の情報も充実しているか
- ⑤ 住民の知りたいニーズに応えているか
- ⑥ 進んで手に取り、読みたくなる工夫があるか

〈 議会だよりクリニック 〉

◎木古内町議会：方針・制作体制 → 議員 5 名

・編集方針：幅広く活動を伝える、住民に愛される広報

⇒ ①裏表紙が大きくて良い、具体的な見出しが良い

②6 段組は 1 行の文字数が少なく行数が多くなるから、短文化を意識したほうが良い。

③結果に至る質疑(議論の状況)を入れるべき。

④議決事項は無くても良い。

⑤記事のピックアップの基準を検討。→ 定例会を大きく俯瞰し重要テーマをワンストップで流れがわかるよう示す。

⑥議案名は小さく、決まった内容を大きく見出しにする。

⑦ 一般質問は、写真、見出し、余白を十分とることで、問・答の見出しが浮き出る。
項目ごとに問・答を載せたほうがわかりやすい。文章に合わせて写真の大きさを調整し、どの議員にも同じサイズが基本。

⑧予算については、行政広報との違いを出し、議会らしさを。→ どう指摘し、どう評価したのかを明確に。

⑨所見にも小見出し(3・4箇所)を入れると見やすくなる。

◎鷹栖町議会：制作体制 → 議員 4 名+事務局

・継続を基本に、他の広報を参考に。

⇒①表紙、基本的レイアウトは良いが、1 色の場合、見出しで差をつけるが、ベタがすべての頁で多すぎる。

②執行方針に対する質疑は良いが、写真のネームはそっけなく、情報になるようなタイトルを。

③予算特別委員会については、テーマを明確に。

④一般質問については、段間を開けているので読みやすい。問が、「である調」で、答が「です・ます調」と異なっているので、統一したほうが良い。→ 「である調」で。

◎東神楽町議会：制作体制 → 議員 5 名ですべて対応。

・基本方針は、「若い人に向けて、分かりやすく」を心掛けている。

⇒①一般質問以外の情報が少ない。

②タイトルは数字のみでなく、議会の思いを込めて。

③課別に並べている。→ テーマ別(防災・移住定住等)にわかりやすく。

④予算・決算のサイクル化を示す、決算審議での提言が、予算にどう反映されたのか？

⑤質問主旨が伝わる見出しの工夫を。

⑥改行を入れる工夫と、文意が把握しやすく簡潔になる編集を。

◎東川町議会：制作体制 → 議員 6 名+事務局 2 名

・各ページを割り振りし、議員が担当し編集。事務局は最終校正を担当。

⇒①写真甲子園(高校)の協力参加を検討しては。

②予算審議については、質疑・評価を登載すべき。

③全体に小見出しの工夫が必要。

④視察報告は感想的になっており、視察効果をどう活かすかの展望が欲しい。

* 講師から、良い事例として「福島議会の視察報告」の話が合った。

◎ 剣淵町議会：制作体制 → 議員(広報担当)が編集、事務局は校正担当。

⇒①表紙写真は、編集の工夫を。目次は、大きすぎ。(半分ぐらいに)

②横組みは、どこから始まるかを明確に。

③一般質問の執行者(答弁者)の写真は止めたほうが良い。

④名前は、写真の近くに。

⑤文章は読みやすく区切る。Q & Aのマークを付けるべき。

⑥写真のタイトルは、情報を伝える役割がある。(施設の名前等のみでは?)

⑦文章を3分の2程度に短縮し、ページをまたがない工夫を。

⑧金額のフォントは、統一すべき。

⑨視点を絞って、分かりやすく。→ グラフ・町村比較等の活用。

⑩ストック情報の登載は良い。(基金、起債等状況、新公会計制度の分析)

◎ 下川町議会：制作体制 → 議員3名+事務局3名、一般質問は議員本人が作成(1頁)

・先進議会の広報を参考にしながら議会に関心のない方に、如何に見てもらうかの工夫。

⇒①裏表紙の「議会運営活動方針」は対話性があり良い。→ 関心が持てる切り口を工夫

②議会だよりは、パンチ穴をあけるので、スペースの配慮を。→ 表紙の発行・編集・住所等を裏表紙のパンチ穴スペースに細く縦書きに挿入する。

③中面は、全体的な構成として、見出しなどで情報の整理を。(一般質問も)

小見出しを読むと大体状況がわかるように。

④フォントが統一されていない。(種類・サイズが微妙に違う)

⑤一部文体がバラバラになっているところがある。(丁寧語等)

⑥予算に関する一般質問が先に紹介され(8頁)、予算内容が後に記載(12頁)となっているので、予算関連の記事を先にもってきたほうがわかりやすい。

⑧ 金額の表示は、算用数字で全てするのではなく、千円・万円等の単位で表示を。

〈 議会だよりの課題と対応 〉

◦ 議事や議会活性化の見える化

◦ 情報を住民目線で選択・整理して発信 → 誰に発信しているのか

→ 発見 → 整理 → 発信

◦ 結果だけでなく、議決に至るプロセスを示す

◦ 定例会以外の情報充実 → クローズアップして特集

◦ 事業評価と決算・予算のサイクル化

◦ 住民参加型広報の多様な広がり → 協働広報(移住・定住者等と)

◦ 紙面のビジュアル化、電子メディアとの連携 → 視覚的情報の発信。文章(活字)ベースになりすぎないよう。スマートフォンへの連動(集約)に進化するだろう。

◎写真：表紙・一般質問等

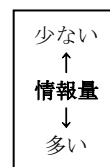
- 説明的であるより、如何に一瞬のイメージを切り取るか。(一点写真)
- ピントの効果を意図的に活かす。→ 背景のぼかし効果、主役をハッキリ
- 一人ひとりの表情がわかるフレーミングで撮影 → 何を強調するのかの意識
- 目次機能より、中を読む気になる見出しに → テーマを絞る
- 一般質問用議員の写真は、3 方向(正面、右、左)から撮影。→ 左右頁に対応

◎情報識別

- 色で(が)情報を分ける。→ 墨ベタ or 墨網(議員 or 執行部)
- 一般質問の進化形を追求。→ 自己評価、リアルな写真と解説、効果的余白
- デザインフォーマットの工夫 → 段間(アキ 2 文字)、マージン(アキ最低 10 mm)
- 同じ段組みでも、見えない線を越えたデザインのバリエーションの工夫。
→ 写真・見出し・余白等での割り付けの工夫等、グリッド(格子)デザインの活用
- 議案賛否 → 議案を手短に解説(全会一致)、賛否が分かれた場合は双方の意見を。
 - タイトル(つかみ = 知りたい、気になる：写真)

→ 見出し/リード文(ナビゲート：予告)

→ 本 文



- 広報紙のページ数に制限されない + 動画再生

→ QR コードの活用により、紙面からスマホへ情報が移転し、HP のコンテンツや動画まで配信が可能となる。